

いたち川の水生植物

太田 道人

とり入れられた水が勢いよく流れている最上流部（地点1）からは、アシツキ（写真1）が発見されました。アシツキは水しぶきが立っているようなきれいな水が流れるところに生えるラン藻類です。庄川中流域の小川のアシツキは大伴家持の歌などもあって古くから有名です。アシツキは、富山県では庄川や利賀村、小矢部市白谷などにしかないと思われていましたが、最近、コンクリートで作られた農業用水の側壁に付着して県内各地から見いだされるようになってきました。注意して探すと、さらに産地が増えるものと思われる。同じ場所の用水の側壁や底には、ウスキシメリゴケというこれもきれいな水に生えるコケ植物がたくさん付着していました。このあたりは、流れが速すぎて付着して生活する植物しか生えていませんでした。

いたち川が市街に入るまでは、水草がほとんど生えていませんが、大泉のいたち川橋（地点4）から松川との合流点（地点M）までには、たくさん生えています。流速が遅くなり、川底の安定性

が高まったためです。水草の生えかたは、水質や水深、流速だけでなく、生える土台である川底の質にも強く影響を受けるので、指標に使うには注意が必要です。このあたりには、水草の種類も量も最も多く、バイカモ（写真2）やオランダガラシ、セリといったきれいな水あるいは湧水を指標する植物とエビモやヤナギモ、コカナダモなどの少々の汚水にも耐えることができる植物とが生えていました。市街地を流れる川としてはきれいな方だといえそうです。これにはいたち川の水が比較的速く流れていることが大きく関係していると思われます。しかし、水草を底から引き抜いてみると、根元の方にはヘドロがまとわりついており、生活排水の影響が少し出ているようです。

松川合流点から下流（地点8-10）では、もう清水を指標する植物は見られなくなって、耐汚水性のエビモやヤナギモ、コカナダモなどの限られた水草しか生えていません。このあたりは水深が深くなり、流速が小さくなることに加え、生活排水や工場排水が流れこむため、水が汚れています。

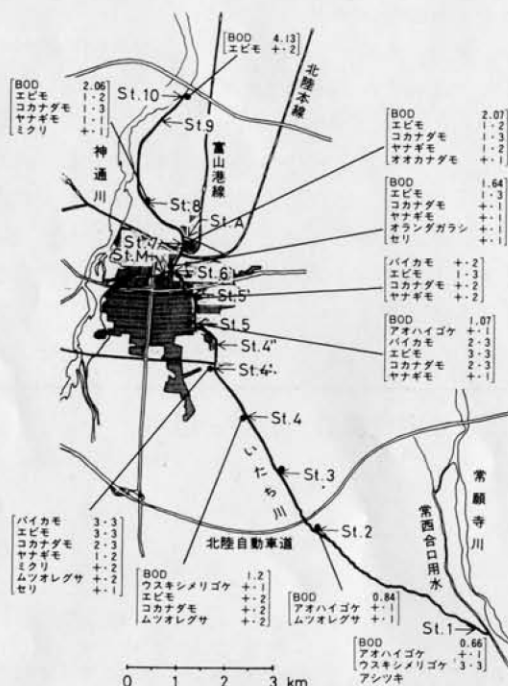


図1 いたち川の水生植物分布
(データは8月1日のもの)



写1 アシツキ



写2 バイカモ

このため最下流部（地点10）では、エビモがかろうじて2株生えているだけでした。このエビモすら汚水でなくなってしまうぬよう、わたしたちひ

とりひとり川を汚さないよう注意していきたいものです。

（おおた みちひと）

いたち川の水生昆虫

根 来 尚

川や池などの水中で生活をしている昆虫類を水生昆虫と呼んでいます。昆虫類の多くは陸上で生活するもので、生活の全てまたは一部を水中ですごす水生昆虫はそう多くはありません。しかし、昆虫のいろんなグループで水中生活をするものがあります。その中でも、幼虫も成虫も水中で生活するものは、半翅類のタイコウチやマツモムシ、甲虫類のゲンゴロウやガムシなどで数が少なく、多くは、カゲロウ類、トンボ類、カワゲラ類などのように幼虫時にのみ水中生活をし、成虫になると空中へ飛び出すものです。川と池とではそこに住む種類がちがい、特に幼虫・成虫ともに水中ですごすものは川では少なくなります。また、同じ川でも、水の質や川底の様子がちがいによって、そこに住む水生昆虫の種類や数がちがってきます。

いたち川では、7目17科78種の水生昆虫が採集されていますが、そのうち51種がユスリカの仲間、カゲロウ類が11種、トビゲラ類が6種、その他のもの（トンボ類・カワゲラ類・ガ類・双翅類）が10種となっています。

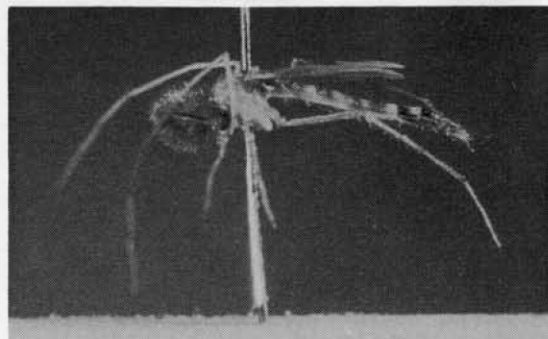
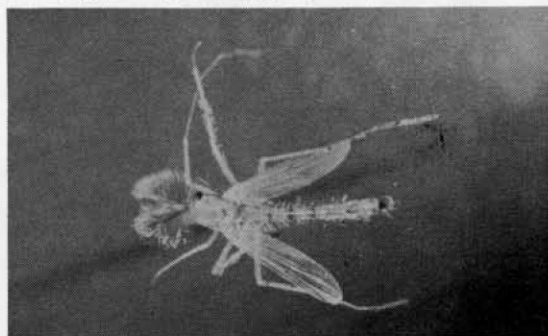
ユスリカ類の幼虫は2～30mmほどの細長い円筒形で、水中の泥や砂中でまた石や水生植物に付着して有機物を食べて成長します。セスジユスリカの幼虫は赤虫と呼ばれ、熱帯魚などのエサとして売られています。



セスジユスリカの幼虫

（水生昆虫幼虫の図は、日本幼虫図鑑・北隆館（1959）による。セスジユスリカの写真は、河合幸一郎氏撮影）

成虫はカのような大きさ・形をしていますが、吸血はしません。多くの雄の個体が集まってかばしらを作っていることがあります。ユスリカ類はたいへん種類が多く、きれいな所からよごれた所までいろんな場所でいろんな種類が住んでいます。種類によって生息可能な水質や底質の範囲がだいたいかぎられ、その場所で見られる種類でおおよその目安がつけられます。いたち川では、上流部ではきれいな水に住む種類が多く、中・下流になるにしたがってややよごれた水・よごれたところにも住める種類が多くなります。中・下流部のユスリカ類は川の浄化に一役かっているのでしょう。いたち川全体で広く見られたユスリカは、よごれた水でも住めるセスジユスリカで、上流から下流まで見られました。また、ユスリカ類はまだ研究途上のグループで、富山医薬大の佐々学学長・河合幸一郎氏の研究で、いたち川からも11種



セスジユスリカ雄成虫 上、上面 下、側面